

農協、配送業務を委託 全国のモデルケース

1995年（平成7年）8月14日（月）

物流Weekly 西日本

（第三種郵便物認可）

農協、配送業務を委託



関西急送㈱（彦惣弘社長、京都市伏見区久我石原町八一四三）は、農業協同組合「JAやぶぐん」（兵庫県養父郡）の生鮮品共同購入者への商品の末端配送を行っている。

全国のモデルケースに

関西急送「JAやぶぐん」から受注

運転者に農協OB女性を起用

JAやぶぐんでは以前から、一人ひとりの班に「まな豆、豆腐や牛乳、ハムな

ら、五人ほどを一つの班に」して添加物をできるだけ含んだ共同購入事業を行っていたが、配達が一週間に一回であったため、週一回の配達を行う生協や、価格の面でスーパーに大きく水をあけられていた。

このため、JAやぶぐんでは、顧客を呼び戻すため週一回の配送体制を決めた。これにもない、これまで農協職員が行っていた組合員への末端配送が煩雑になることから、同社へ委託されたもの。

同社では、軽自動車バン四台を新たに購入し、ドライバーには農協OBの女性を起用。一日の一台当たりの配達件数は約二十二、三件。

農協OBの女性を起用したのは、共同購入のイメージアップを図ること以外に、運送会社に委託する場合一番心配される「組合員とのコミュニケーションや意見交換、商品の説明などができないのでは」という理由も含まれていた。

同社の大熊康博営業本部長は「運ぶだけでは何の意味もない。組合員の意見を聞き出し、今後の共同購入の在り方を農協と共に探っていくのも、配送を任せられた当社の大事な仕事と考えている」としている。

現在、兵庫県下の農協組合員数は約三十三万人で、生鮮共同購入利用者は一万五千人程度。JAやぶぐんも組合員数七千七百人。一